HANDS

Kokura Memorial Hospital

61
2015

いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555　北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号　TEL.093-511-2000（代表）　小倉記念病院　検索

TEL.093-511-2062（医療連携課）FAX.0120-020-027（医療連携課）FAX.093-511-2032（救急室）夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】循環器内科

鳥町食道街の中に佇む小倉記念病院 循環器内科を支える4名の部長。左から兵頭真、安藤献児、曽我芳光、白井伸一。10年以上この小倉の地で診療を続け、最先端の医療を地域へ提供してきた。そして世界水準の医療を、ここ「小倉」からライブデモンストレーションで全国に発信する。

小倉ライブ 原点と継承。

「心臓カテーテル治療は私自身経験がなく手探りでのスタート。それはもう反対の嵐でした。近隣の医師や大学からも反対され、何人もの患者さんが病院を離れていきました。それでも患者さんの負担軽減を思えば、絶対にやるべきだという信念が僕にはあった。」

これが日本でＰＣＩを普及させた延吉正清の当時の想いだった。それから３０年、ＰＣＩは日本中に普及し、多くの患者さんが救われてきた。

その一翼に担ったのが、「小倉ライブ」だ。その当時の医者の中には自らの技術を「秘伝」と称し、限られたもののみに伝えるという「偏狭な」考え方をする人もいた。しかし、それではいい医療が世の中に広まらないと考え、多くの医者に技術を公開することにした。すると、たくさんの見学者が小倉記念病院を訪れるようになり、カテ室だけではＰＴＣＡを教えることが出来なくなった。そこで誕生したのが小倉ライブである。

全国どこでも同じレベルの治療が受けられないといけない、よりよい医療を世の中に普及させるためには技術を見て学ぶ機会が必要だとの信念は、３０年たった今でも色あせていない。心臓血管の治療方法は時代と共に進化しているが、小倉ライブは今後も新しい治療方法を世の中に広めていく。

新生小倉ライブ 新たなる構築

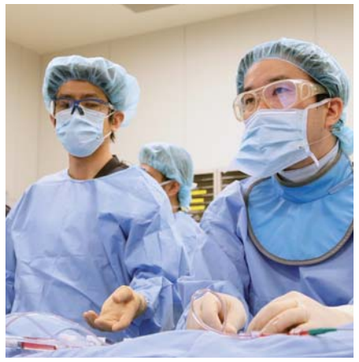
小倉ライブがつないでいく医療の未来。それは一人ひとりの知識や経験をつないでいく作業。「日本のどこでも同じ水準の医療が受けられるようになること」、この原点はＰＣＩ、ＥＶＴ、アブレーション、ＣＲＴ、ＳＨＤ、脳血管インターベンション、すべての医師の心に刻まれている。

PCI

「教育」から「共有」の場へ

小倉ライブは当院からＰＣＩを日本中に広めるためにスタートした会ですが、現在ではＰＣＩも全国に普及され、「教育」から「共有」の場になったと感じています。当院では「３Ｓ（Ｓｉｍｐｌｅ・Ｓｐｅｅｄｙ・Ｓａｆｅｔｙ）ＰＣＩ」をモットーに治療していますが、他施設の特徴や違いを意見交換することで新たな発見をすることもあります。また当院は医療機器の進歩を取り入れる風土がありますので、その機器の有用性などを伝えていくことは今後も当院の役目と考えていますし、来年あたりには生体吸収性ステントが出てきそうなので、またみなさんと議論できればと思います。

循環器内科部長　兵頭 真



EVT

アジアに向けて情報を発信

今年も症例が盛りだくさんで、いろいろなディスカッションを行うことができました。特に今年は海外の先生もお呼びして「インターナショナルセッション」をはじめて行いました。アジアに向けて情報を発信することで、小倉ライブを九州のみならず全国、そしてアジア各国のプロフェッショナルたちが集う会に育てたいですね。

あと若い先生たちにオペレーターまでできるように頑張ってもらいたいです。小倉ライブで若い先生たちとディスカッションできる日が早く来ることを期待しています。

循環器内科部長　曽我 芳光

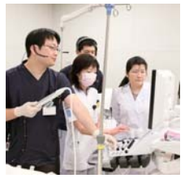
SHD

いち早くストラクチャーの有効性を伝える

現在、冠動脈治療、ならびに末梢血管治療に加えて、Ｓｔｒｕｃｔｕｒａｌ Ｈｅａｒｔ Ｄｉｓｅａｓｅ（ＳＨＤ）に対するインターベンションが日本でも広く行われつつあります。

今年の小倉ライブはビデオライブを中心とした内容で、様々な施設の取り組みを学ぶことができました。日本はデバイスラグが大きく厳しい状況の中で、いち早くストラクチャーの有効性を伝えるのは小倉ライブの使命です。今後も導入された機器に対して、ストラクチャーの有志たちと協力して普及に努めていきたいと思います。

循環器内科部長　白井 伸一



Column 01　若手の循環器内科医が見た初めての小倉ライブ

循環器内科医
與田 俊介

循環器内科医を目指したときから小倉ライブの存在は知っていました。以前に他院のライブを会場で見たことがありますが、実際に現場のカテ室で仕事をすると、会場では感じることができなかった本当の緊張感や苦労などを目にすることができて勉強になりました。また多数の方々とディスカッションをしながら治療をやりつづける集中力には驚かされます。他院との違いなども感じられて、循環器内科医として少しは成長できたかと思います。

アブレーション

チームの絆の深さを実感

当院の症例もなんとか無事にやり遂げることができました。鵜野先生の終了直前にａｆが停止するドラマのような展開があったり、慶田先生の国内初のマーシャルケミカルアブレーション、里見先生には再発例の難治性ＡＴに対するアブレーションなど非常に勉強になりました。合屋先生はじめ座長の先生方とコメンテーターの先生方には大変お世話になりました。院内スタッフの協力と、これまで合屋先生のもとで育ってきた先生方の助けがなければ成功しませんでした。改めてこのチームの絆の深さを実感することができました。

循環器内科副部長　廣島 謙一

デバイス

若い医師の成長の場

デバイスに関しては各社それぞれ違いがありますが、医師の技術を凌駕してしまうほどいい医療機器が導入されています。これからの「腕のいい医者」とは新たな進歩をいち早く取り入れている医師のことを言うのかもしれません。そしてそのような医師が小倉ライブで集い、ディスカッションを通じて、治療の質を高められればと思っています。また今年は後進の永島先生に頑張ってもらいました。会場で著名な先生方に見られながら治療するのは緊張したでしょうが、あと数年もすれば立派なメインオペレーターに育っていると信じています。

循環器内科主任部長　安藤 献児

Imaging and Physiology

日常臨床の一助になることを

冠動脈内イメージングや機能的評価（ＦＦＲ）などの診断は、適切な適応判断や治療戦略を考えるうえで必要不可欠なものとなっています。しかし術者の考え方により、その解釈や治療戦略が千差万別であることに気づかされます。本セッションでは、冠動脈形成術の対象が複雑病変に及んでいる昨今においてこそ、普段頻繁に遭遇する病変に対する適切な診断解釈と治療戦略を考えることが重要と考えられ、セッションでの議論が日常臨床の何らかの一助になることを期待します。

循環器内科副部長　道明 武範

Column 02　コメディカルの小倉ライブ

検査技師部
第二生理検査課
小宮 由美子

新たな最先端治療にコメディカルがどうやって携わっていくのか、その指導を実際に最先端治療に取り組んでいる医師から教わることは、自分自身の成長にも繋がります。それを現場で実践するためには教科書通りではなく、試行錯誤しながら現場に即したやり方を見つけるしかありません。そのやり方を地域で働く技師さんへ伝えることで、地域医療の底上げに貢献できればと思います。

脳血管

自分自身では気づかない新たな視点

はじめて脳血管内治療を小倉ライブで行いましたが、前部長の中原先生にもお手伝いいただき、無事に治療を終えることができました。いつもの研究会等では脳神経外科の先生方と治療についてディスカッションする機会はありますが、循環器内科の先生とディスカッションできたことは新鮮でした。自分自身では気づかない新しい視点が得られたと思います。今後は循環器内科の先生方が脳血管内治療を通じて、心疾患カテーテル治療の新たな視点を得てもらえるようになればと期待しています。

脳神経外科主任部長　石井 暁

留学セッション

後輩たちが一歩を踏み出す道を作る

留学支援団体ＳＵＮＲＩＳＥとの共同企画で、海外留学経験者が集まり留学までの準備や現地での生活、病院での仕事内容などの体験談を５人の演者に語って頂きました。国は違えどもみな同じような苦労をしており、それぞれのやり方で壁を乗り越えてきた演者の先生方の話は、これから留学を志す後輩たちに大いに刺激になったものと思います。留学は苦労が多いものの得難い人生経験であり、こうしたセッションをきっかけにして人の輪を力にして未知の世界へ一歩を踏み出そうする後輩たちが出てくるのを楽しみにしています。

循環器内科医長　磯谷 彰宏

低侵襲心臓手術麻酔

カテーテル治療の進化とともに、麻酔科医も進化する

今年のテーマは「ＴＡＶＩ　術者と麻酔科医パートナーの心を射るための講座！」と題して、ＴＡＶＩを実施している３施設から、術者と麻酔科医にそれぞれ自施設の取り組みや特徴を語っていただきました。麻酔科医としてどうすれば術者と阿吽の呼吸で手術中の麻酔と全身管理ができるか、そしてカテーテル治療が進化していく中で、麻酔科医がどのように関わっていけばいいのかが見えてきました。小倉ライブでのセッションを通じて、今後カテーテル治療に興味を持つ麻酔科医が増えていくことを期待しています。

麻酔科・集中治療部 副院長兼主任部長　瀬尾 勝弘

Column 03　小倉ライブでの市民公開講座

心臓血管病センター外来
松下 沙恵

心不全患者さんの生活習慣見直し、自己管理の重要性について一般市民の方へお話ししました。当院には毎日200名から300名の患者さんが受診されますが、入退院を繰り返す心不全患者さんの自己管理の徹底が必須であることに着目し、2013年から心不全生活指導を行っています。地域の方々が安心して暮らせるように、自己管理意識の向上・再入院率の低下・QOLの向上に寄与できれば幸いです。

日本、海外の医師たちが小倉ライブに集結。

現在のカテーテル治療は心臓だけにとどまらずに全身の血管病変に対して行われている。PCIはもちろん、EVT、アブレーション、CRT、SHD、脳血管インターベンションまで。おのずとその道のプロフェッショナルが日本各地で誕生する。小倉ライブはそのような違う地域で活躍する医師を招聘し手技を披露してもらう。なぜなら他施設との比較、他科の治療との比較を自由闊達に議論することが、安全で最適な治療法への近道だからだ。そして私たち自身も、この地域の方々がより良い医療を受けられるように、その技術を吸収していく。

札幌

札幌ハートセンター
理事長
藤田 勉

・PCI Live 2：座長

岩手

岩手医科大学
心臓血管外科学講座教授
岡林 均

・小倉TF：コメンテーター

千葉

新東京病院
病院長
中村 淳

・PCI Live 6：オペレーター

東京

東京大学医学部附属病院
循環器内科講師
附属病院マネジメント領域
安東 治郎

・PCI Live 8：オペレーター
・Polyvascular diseaseを
カテーテルで治療する3：座長
・多枝CTOに対する血行再建：演者

神奈川

湘南鎌倉総合病院
副院長・循環器科部長
齋藤 滋

・PCI Live 5：オペレーター
・PCI Live 6：オペレーター
・技術と経験の継承2：座長

岐阜

松波総合病院
循環器内科
心臓疾患センター長
上野 勝己

・PCI Live 7：座長
・DCB Seminar：座長

兵庫

神戸市立医療センター
中央市民病院
循環器内科医長
江原 夏彦

・CRTライブ2：コメンテーター
・小倉TF：コメンテーター

岡山

倉敷中央病院
循環器内科主任部長
門田 一繁

・PCI Live 9：座長
・Special patient subsets
「Left main bifurcation」：演者

長崎

長崎大学病院
循環器内科学講師
片山 敏郎

・PCI Live 2：コメンテーター
・PCI Live 4：コメンテーター
・Imaging and Physiology Live 1
「Calcified Lesion」：オペレーター
・CTOカンファレンス：コメンテーター

京都

京都大学
循環器内科学教授
木村 剛

・PCI Live ：コースディレクター
・PCI Live 1：オペレーター
・DES/BVS Forum
冠動脈ステントの現状と将来：コースディレクター
・The Future of DES：座長
・Update on Antithrombotic Therapy
for Acute Coronary Syndrome：座長

奈良

天理よろづ相談所病院
循環器内科部長
中川 義久

・PCI Live 1：座長
・延吉正清はPCIだけでなく、何を伝え教えたか!：コースディレクター
・エビデンスとエキスパートオピニオンからの激討：コースディレクター
・PCI手技の変遷と小倉ライブの果たしてきた役割：演者
・失敗（経験）から学ぶチーム医療～役割と連携～：座長

2015
KOKURA LIVE
DEMONSTRATION

SAPPORO
IWATE
KYOTO
GIFU
TOKYO
CHIBA
KANAGAWA
HYOGO
NARA
OKAYAMA
KOKURA
NAGASAKI

海外からのお客様

ドイツ
Adnan Kastrati

ベルギー
Luc Jozef L.M.Jordaens

イタリア
Corrado Tamburino

アメリカ
Michael Joner
John R.Laird Jr

中国
Bryan P.Yan

台湾
Cheng-chun Wei

韓国
Donghoon Choi
Jae-Hwan Lee

シンガポール
Jackie Pei Ho

タイ
Keerati Hongsakul

ベトナム
Nguyen Huynh Khuoug
Nguyen Tung Son

*2015 KOKURALIVE DEMONSTRATION PROGRAMより一部抜粋

これからも
母をよろしく。
川淀 二代目　川上仁志さん

いろんなお客さんと
出会える。それが幸せ。
川淀 女将　川上愛子さん

番外編

小倉記念病院の患者さんを訪ねる

「小倉ライブ」

店の暖簾をくぐると「いらっしゃいませ。」と笑顔が素敵な女将さんが迎えてくれた。隣には2代目の息子さんがうなぎを焼いている。ここは創業26年 鰻の名店「川淀」。女将さんに会うために来店する常連客も多く、長年名店を支え続けた看板娘だ。女将さんである川上愛子さんは昨年当院でカテーテル治療を受けている。現在はどんな暮らしを送っているのか、話を伺った。

「昔から心臓が痛くなることがあって、薬を飲んだら落ち着いてたんだけど、去年はトイレで意識がなくなって救急車で記念病院に運ばれたんです。」

川上さんは昨年の6月に心筋梗塞で当院へ運ばれた。検査の結果、左冠動脈の心臓の前面を走る左前下行枝に狭窄が認められ、緊急カテーテル治療を受けている。

「意識が戻ったのは治療も終わって看護師さんから声をかけられた時で、治療が怖かったとか痛かったとかの記憶はないですね。その時担当してくれた先生は永島先生だったけど、すごくやさしい先生でとても感謝しています。」

現在は元気に働いており「主人も息子もお酒は飲まないけど、私は鹿児島の出身で父親が大酒飲みだったからビールが好きなの。かかりつけ医の先生に相談したら350mlくらいのビールだったら毎日飲んでも大丈夫って言われて、休みの日なんかは美味しいものを食べながらいただいてます。」と笑って話す。

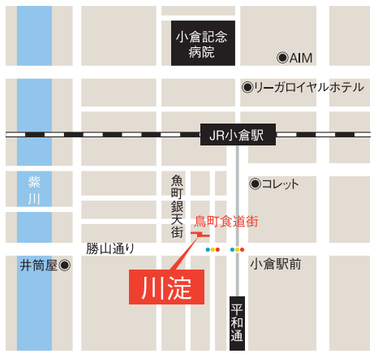
「本当に記念病院にはお世話になってます。井筒屋さんのところにあった頃なんかは、先生や看護師さんがお昼休みに食べに来てくれたり、その当時の先生方の息子さんも未だに通ってくれてます。そして私の母は記念病院で看取ってもらいました。主人は2年前に亡くなりましたが、鹿児島に一人で入院していた母を、記念病院に転院させてくれたのは主人なんです。職人気質で強面だったけど、とてもやさしい人でした。毎日仏壇に『お父さん、今日は忙しかったよ。今日はあの人が来てくれたよ』と必ず報告しています。」

これからの楽しみを伺うと、「お店に出ていろんなお客さんと出会えるのが楽しみ。小倉を離れて遠くへ転勤した人でも、こっちに来た時には寄ってくれてね、『また来るからね』と言われると、私もまだまだ頑張らないと思います。本当に私は幸せ者で、お客さんや家族、かかりつけ医の先生、記念病院の先生方や看護師さん、いろんな人に助けてもらって今日の私があると思っています。」

こんな素敵な女将さんがいる「川淀」。小倉に来た際にはぜひ一度足を運んでみて欲しい。

JR小倉駅より徒歩2分。魚町銀天街から勝山通りに出る少し手前に位置する鳥町食道街。昭和の古き良き時代を残したその路地の一角に「うなぎ」ひとすじ64年の歴史をもつ川淀がある。

炭火でじっくりと焼かれたうなぎは、創業昭和26年当時から変わらない秘伝のタレによって抜群の旨味を引き出す。古き良きモノにこだわり続けた老舗の味を堪能できる。



小倉鳥町食道街　川淀

北九州市小倉北区魚町1-4-16
TEL.093-521-2764
営業時間／火～日 11:00～21:00（L.O20:30）
定 休 日／月曜日